

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 1 日

事業所名 児童発達支援事業所 きらり児島

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		広い空間の中で、目的別のエリアを用意している。	再度エリアごとに目的を持って活動していく。
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		所属園を想定し、個別のエリア分けを行っていない結果、室内を走る行動が見られる為、改善を検討している。	少人数で遊ぶエリアを残しつつ、それぞれのエリアに目的を持たせることで、お子さんが遊びに注目出来るように設定する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		日々、清掃に取り組んではいる。壊れた箇所についてはその日の内に修繕している。	日々、玩具や室内の環境チェックを行うことで、お子さんが過ごしやすい環境を設定していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎月の職員会議の中で、誰が、いつまでに等と話し合いで決めている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		日々の振り返りの中から、保護者の方の意向を聞き取るよう心掛けている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		事業所評価についてホームページに掲載している。	つうしんにて掲載していることは伝えていながら、玄関先にもファイリングするなど、保護者の方にいつでも見て頂けるようにする。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者評価機関から頂いた情報を基に改善を進めている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所内研修以外にも、法人内の他事業所と合同で研修会を開催している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		計画の立案にあたっては、個人ではなくチームで立案するようにしている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		法人内で共通のアセスメントシートを活用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		お子さんが地域の中で生活する姿を踏まえ、計画を立案している。家族支援の内容についても取り入れている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		グルーピングをする中で、個別支援計画に沿った活動に取り組んでいる。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		担当を中心にプログラムを立案している。法人内の専門職にも意見をもらいながらプログラムを組み立てている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		その日のお子さんの姿も参考にしながら、同じプログラムにならないよう注意をしている。集いだけではなく、制作活動も取り入れている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		お子さんの必要性に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせながら設定している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝、職員間で打ち合わせを行い、その日の流れ、役割分担、活動のねらいなどを確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後、その日の振り返りを行い、子どもの様子などを情報共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		利用ごとに連絡帳を記入することで記録として残している。また、個別の会議の際には、会議録として残すようにしている。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		誕生日月毎に見直しをするように設定している。必要に応じて、計画達成した際は見直しをするようにしている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		原則は児発管が参加しているが、療育終了後の時間帯であれば、担当職員が参加するなどしている。参加していない職員に対しては、周知するようにしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		定期的な会議や研修に参加している。参加していない職員に対しては、伝達するようにしている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在、医療的ケア児の受け入れを行っていない。受け入れが必要になった時は、法人内の事業所を紹介する等の対応をする。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在、医療的ケアが必要な子どもを受け入れる設備や職員配置にはなっていない。今後、ニーズが出てきた場合は他事業所の様子を確認していく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の方の意向を把握しながら、移行先の所属園に書面を用いて引継ぎ等を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の方の意向を把握しながら、移行先の所属校に書面を用いて引継ぎ等を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		法人内の事業所やセンターとの連携をしている。また、同じ地区の事業所と定期的な交流を持つようにしている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		利用児の様子を見るための、園訪問にて交流はしている。一時的な行事の参加の場面等で交流する事はある。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		子ども部会の研修会には参加出来ている。また、地域の小地域ケア会議に定期的に参加する事が出来ている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		利用時の引継ぎ時に状況や姿について伝え、課題についても伝えている。	毎回伝えられていることは良い点ですが、時間が短いことや送迎を別の福祉サービスを活用されている方であると直接伝える事が難しいのが現状である。個別での懇談時間の確保や電話にて様子のお伝えをしていく。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○				

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に説明したり、玄関に張り出してはいるが周知されていないことが課題だと感じている。分かりやすい伝達方法を検討する。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者会自体は無いが、保護者同士の交流を目的に茶話会や親子ふれあい活動を実施している。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、つうしんを発行している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		掲載前には事前に公開する情報を保護者の方に確認している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			地域の小学生を対象にした活動の実施はしているものの、地域住民を招く事業運営には至っていない。地域の方にどのような取り組みを行っているかを知っていただけるような取り組みを行っていく。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		月に1回のペースで実施をしている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハットの作成には取り組んでいるが、事例集にまでは至っていない。起こりやすいヒヤリや事故を分析し、未然防止策を検討していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に事業所内外の研修を受講し、自身の行動の振り返りを行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。